第４回石狩市総合計画策定審議会　議事録

【日　時】　令和８年 10 月９日（金）13：30 ～14：50
【場　所】　石狩市役所　４階　401・402 会議室
【出席者】　17 名（24 名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	森　傑	○	委員	齊藤　孝仁	×	委員	星野　ゆかり	×
副会長	酒井　妙美	○	委員	平野　花	×	委員	早川　久夫	○
委員	木村　邦博	○	委員	上田　均	○	委員	草野　竹史	×
委員	小笠原　英史	○	委員	清水　雅季	×	委員	佐藤　眞彰	○
委員	藤田　宏司	○	委員	菊地　功	○	委員	飯塚　諒	○
委員	村本　龍一	○	委員	東　幸子	○	委員	波多野　夢子	○
委員	小山　玲子	○	委員	渡邉　隆之	×	委員	八田　美夕	○
委員	野村　彩夏	○	委員	吉尾　健	×	委員	徳地　克実	○

【事務局】企画政策部長　佐々木 大樹、企画課長 大川　実、企画課主査 市川　樹一朗
　　企画課主任 中村　洸太、企画課主任 日置　達也
【傍聴者】０名

【事務局】

定刻となりましたので、ただいまから第４回石狩市総合計画策定審議会を開催いたします。本日はお忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。

はじめに、委員の皆さまに事前に郵送しました書類をお持ちいただいているか確認いたします。お持ちでない方には事務局で用意しておりますので、お申し出ください。

本日は、事前に送付しました、次第、委員名簿・出欠表・座席表、資料１「第６期石狩市総合計画原案（案）」、資料２「第３回審議会における意見への対応表」に加え、本日机上配付しました「計画策定のための意見聴取等の実施状況」及び「基本構想の達成に向けて」の資料を用意しております。これらの資料を基に進行しますので、よろしくお願いいたします。

なお、本審議会は、傍聴可能な公開形式です。審議会の記録のため、写真や動画を撮影することがありますので、ご了承ください。

また、年度途中ではありますが、石狩湾新港企業団地連絡協議会の役員改選に伴い、桑山 渉 様に代わり、齊藤　孝仁 様が新たに委員へ就任されましたので、ご報告します。

本日は、石狩湾新港企業団地連絡協議会の齊藤委員、石狩市社会福祉協議会の平野委員、NPO 法人石狩市文化協会の清水委員、浜益地域協議会の渡邉委員、石狩市金融協会の吉尾委員、子育て支援ワーカーズぽけっとママの星野委員、NPO 法人 ezorock の草野委員が、都合により欠席しております。また、企画政策部長の佐々木は業務のため、後ほど遅れて出席する予定です。

なお、本日の終了時刻は 15 時を予定しております。

それでは議事に入ります。森会長、よろしくお願いいたします。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

本日はどうぞよろしくお願いいたします。事前にお話があったとおり、時期的にも、いよいよパブリックコメントのベースとなる資料が上がってきています。

本日は、前回までの意見がこれらの資料に適切に反映されているかを皆さまにご確認いただき、その後、市民の皆さまからご意見をいただくパブリックコメントの段階へ進むことになります。

それでは議事を進めます。まず、資料にあるとおり、前回の審議会からこれまでの間に行った市民参加に関する取組について、事務局から紹介をお願いします。

【事務局】

原案の説明に入る前に、前回の審議会以降に実施した市民意見聴取の状況をご説明します。本日机上配布しました「計画策定のための意見聴取等の実施状況」をご覧ください。

前回の審議会以降、「素案パネル展」と「石狩ミライゆる会議」での意見交換を行いました。はじめに、素案パネル展は、第６期石狩市総合計画策定に向けた進捗状況と、取りまとめた素案の周知を目的として、８月８日から 23 日まで、市内のコミュニティセンターなど 14 か所で実施しました。一部の施設では、こども向けのパネルも展示しました。

パネル展示に合わせ、６つの目標のうち、特に大事だと思うものにシールを貼っていただく投票を行いました。16 日間で計 646 枚の投票があり、多くの関心をいただけたものと考えています。シール投票が 646 枚ですので、実際にパネルをご覧いただいた方は、これより多かったものと考えています。

続いて、「石狩ミライゆる会議」では、２月に実施した第１回に続き、主催者の定期イベントの番外編として、８月 19 日に第２回を実施しました。審議会委員でもある NPO 法人 ezorock の草野さん、株式会社 WREERA の飯塚さんに加え、私、大川の３名が登壇し、トークセッション、質疑応答、内容の深掘りなどを行い、約 30 名の参加者と意見交換しました。

主な意見としては、市民参加が大事である一方、現在はその参加が少ないという声がありました。また、石狩・厚田・浜益では地域性が大きく異なることを前提として、地域間の交流や市全体を俯瞰する視点を求める意見をいただきました。計画策定後にどのように広め、活用するかという点への関心も高く、エンターテインメント性のある伝え方や、分かりやすい媒体の工夫を求める声もありました。これらの意見も踏まえ、原案を取りまとめています。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

ありがとうございました。かなりのシール投票数で、関心の高さが表れていると思います。「石狩ミライゆる会議」について、主催者である飯塚委員から補足などを含め、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【飯塚委員（市民公募）】

普段は３人の登壇者がテーブルに座って話し合う形ですが、今回は手法を変えて、登壇者

３人で話した後、参加者から挙手で意見をいただく形で行いました。市民の方々は、草野さんに対してRISING SUN ROCK FESTIVALのイメージを強く持っており、当日は音楽ファンや音楽活動をしている方が多かったこともあって、「RISING SUN ROCK FESTIVALをもっと前面に出した方が良い」、「市民が参加しやすいように、市民が購入するチケットを安くできないか」、「興味はあるが行ったことがない人にも関心を持ってもらい、石狩の誇りにしたら良い」といった意見が多く出ました。今回の原案を見たときに、RISING SUN ROCK FESTIVALが以前より前面に出ていると感じましたので、その意味では意見と一致していると思います。音楽が好きな方にとって、RISING SUN ROCK FESTIVALは石狩の誇りになっていると感じました。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授)】

ありがとうございました。これから、より多くの人に関心を持っていただくための発信方法は非常に大切です。また、策定後にどのように広め、活用するかという話も重要です。計画は策定して終わりではなく、どのように実行へつなげるかが問われます。この点は、後半で議論する戦略目標、すなわち計画をどう実行していくかという論点にも関わると思います。

ご報告ありがとうございました。それでは本題に入ります。総合計画の原案は、事前に送付いただいていますが、情報量が多いため、分割して説明いただきます。まず全体構成と第１章から第３章までを事務局からご説明いただき、意見を確認した後、第４章をご説明いただく形とします。事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料１「第６期石狩市総合計画原案（案)」に沿って説明します。資料２には、第３回審議会で委員の皆さまからいただいた意見をどのように反映したかを一覧で記載していますので、適宜ご覧ください。

全体として記載内容はおおむね固まってきましたが、デザインやイラスト等は調整中です。

表紙については、第５期総合計画は赤を基調としていましたが、第６期は青を基調とし、優しいタッチのイラストを多く用いています。先ほど飯塚委員からもお話があったように、RISING SUN ROCK FESTIVALは市民に広く認知されていますので、それをイメージしたイラストも表紙に追加しています。

次の「はじめに」では、世界及び国内の社会情勢と石狩市の地域情勢を記載しています。その次が目次で、デザインは現在調整中です。

２ページから第１章に入ります。基本的には素案の文章を基に、軽微な修正を行っています。「計画の役割」では、総合計画は本市の最上位計画であり、市民憲章が示す普遍的なまちの理想へ向かう羅針盤であることを示しています。また、第６期計画は第５期計画の意思を継ぎつつ、前計画の策定から約10年の間に生じた人口減少・超高齢社会の本格的な到来やデジタル技術の普及など、時代の変化に対応しながら、これからの30年を見据えたまちづくりの指針となるものです。

「計画の構成」では、基本構想と基本計画の二層構造であること、総合戦略を総合計画の実行計画として位置付けることなどを記載しています。

「計画期間」は、前回案と同じく令和９年度から令和 16 年度までの８年間としています。

４ページから第２章に入ります。４ページには、石狩市の紹介として歴史と概要を、５ページには石狩市の６つの特色として、主な取組や先進的な取組を掲載しています。６、７ページでは、市内を大きく４つのエリアに分け、それぞれの特色を示しています。第３回審議会での森会長や徳地委員からのご意見を踏まえ、優位性だけでなく課題も記載しました。

厚田・浜益を対象とした北部地区は、大自然と住民同士の温かなつながりを優位性とする一方で、人口減少と高齢化の深刻化を課題としています。新港を対象とした工業地区は、道内最大級の工業団地で約 770 社が操業し、約２万人が就業していることを優位性とし、大規模な分譲用地が減り、企業ニーズに応えることが難しくなっていることを課題としています。本町などの河口地区及び八幡や高岡などの右岸地区は、石狩の歴史や希少な石狩浜の海浜生態系、多様な都市農村交流を優位性とし、地域公共交通の維持・確保を課題としています。そして、花川、樽川、緑苑台などの中心市街地区は、充実した生活・子育て環境を優位性とし、住民同士のつながりの希薄化を課題としています。これらの地区は、地図上で明確に線引きすることは難しいため、大まかな位置を示す形で調整しています。

８ページは素案から追加したページです。まちづくりのミッションを「30 年後のまちの持続」とし、「このまちに住み続けたい」「このまちに住みたい」と思える「魅力あるまち」を目指していることから、人口推移に関するデータを追加しました。長期的な人口は、平成 17 年に約６万人でピークを迎え、その後減少し、現在は約５万６千人、約 30 年後の 2060 年には約３万７千人まで減少する推計です。

年齢３区分別人口構成比は、2025 年に年少人口 11%、生産年齢人口 54%、老年人口 35%ですが、2060 年にはそれぞれ９%、46%、45%となり、年少人口が 10%を下回り、生産年齢人口と老年人口がほぼ同じ割合になる推計です。

次に、人口動態については、出生・死亡の自然動態は、平成 17 年以降、死亡が出生を上回る自然減が続いています。一方、転入・転出の社会動態は、平成 30 年以降、転入が転出を上回る社会増が続いています。豊かな自然、子育て環境、生活の利便性、宅地造成に伴う戸建て住宅の需要などが要因と考えられます。しかし、自然減が社会増を上回るため、総人口は減少しています。

外国人居住者数は、集計を始めた平成 26 年の 178 人から、現在、グラフは調整中ですが、令和８年３月末には 1,000 人を超え、約 10 年間で６倍近く増えています。

10 ページから第３章に入ります。計画の根幹となる基本構想として、「まちづくりのミッション」と「目指すまちの将来像」を掲げています。市民意見を広く聴いた結果、第５期から方向性に大きな変更はないものとし、ミッションは第５期と同様、「30 年後のまちの持続」、「このまちに住み続けたい」「このまちに住みたい」と思える「魅力あるまち」であり続けるとしています。本文については、素案からほぼ変更していません。イラストには、ソフトボールやキャンプ場など、石狩らしさを表す要素をもう少し追加する予定です。

12 ページの「目指すまちの将来像」も、第５期と同様に、都市像に「創造・絆・環境」、市民像に「石狩 PRIDE」を掲げています。文章は素案から一部修正しました。

14、15 ページについては、机上配布した A3 資料をご覧ください。基本構想の達成へ向けた道筋を示すイメージ図です。個別計画などに基づくさまざまな事業を鮭に見立て、それらの事業と基本構想との関係を、石狩らしく鮭の遡上になぞらえて表現しています。各事業をそれぞれの目標・目的に向けて進めるとともに、分野横断的な６つの戦略目標に沿って推進することで、都市像・市民像の実現、ひいてはまちづくりのミッションの達成につながることを表しています。第１章から第３章までの説明は以上です。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授)】

全体として、デザインは良く、文字量や文章表現も読みやすく仕上がっていると思います。内容について、意味が分かりにくいところなども含め、ご意見をお願いします。

【佐藤委員（NPO 法人石狩国際交流協会)】

工業地区では、分譲用地が少なくなっていることも事実ですが、もう一つの大きな課題は通勤手段がないことです。河口地区や農村地区にも共通しますが、こちらも課題として取り上げた方が良いと思います。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授)】

課題欄への記載について、スペースを調整しながら検討いただければと思います。

鮭の遡上を用いた図は良いと思います。一方、左側の基本構想・戦略目標・基本施策・個別計画の関係は、遡上に合わせて下から上へ矢印が向いていますが、本来は上位計画から下位計画へ方針が伝わる関係でもあります。上向きだけでなく、両方向の表現にするなど、総合計画を上位計画として位置付ける意味が分かるよう工夫していただければと思います。

続いて、第４章の基本計画では、目標に対してどのような施策を展開するかという内容になります。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

16 ページには戦略目標と「ねらい」の一覧を示しています。今回の資料では「ねらい」の部分がすべて同じ表記になっていますが、パブリックコメントの際には修正します。

17 ページには基本施策の一覧を、18 ページ以降には各戦略目標の詳細を記載しています。前回、戦略目標は、「ねらい」のタイトル、関連キーワードまでの説明でしたが、原案では説明文と図表を加えました。各戦略目標は、左上に設定の背景、その下に関連図表を２点、右側に対応する３つの「ねらい」を配置しています。

戦略目標１は、前回案と同じ「『こども』が健やかに育つまち」です。子育て世帯のライフスタイルの多様化など、社会の変化を背景としたこども・子育て支援、教育に関する目標です。

一つ目の図表では、保育施設への入所児童の割合と待機児童数の推移を示しています。保育対象年齢の児童のうち、保育園へ入所する児童の割合は右肩上がりで、共働き世帯や女性の就業率の上昇による保育ニーズの高まりを示しています。そのなか、石狩市では令和３年度以降、保育児童における待機児童数は０人で推移しています。

二つ目の図表は、出生数と合計特殊出生率の推移です。出生数は減少傾向ですが、石狩市の合計特殊出生率は上昇傾向です。

これらの背景から、「こどもが主役となり、躍動するまち」「地域が一体となり、子育てを支えるまち」「充実した教育環境のもと、こども自らが学び育つまち」の３点を「ねらい」としました。

素案では、ねらい２は「地域が一体となり、こども・子育てを支えるまち」としていましたが、ねらい１をこども自身、ねらい２を子育てする保護者に焦点化し、役割を分けるよう修正しました。

戦略目標２は「『誰も』が活躍するまち」です。地域コミュニティ、高齢者の活躍、多様性への理解などに関する目標です。

一つ目の図表では、町内会加入率と高齢者世帯割合の推移を示しています。町内会加入率が低下する一方、高齢者のみの世帯は増えており、支え合う地域づくりに向けて地域コミュニティのつながりを強化する必要があります。

二つ目の図表は地域社会への参画意欲で、「地域社会で自分の知識や経験を活かしている」と答えた割合は10%を下回っています。特に若者では実際に活かしている割合が低い一方、「機会があれば参加したい」と考える割合が高く、参画のきっかけづくりが必要です。また、前回の審議会で、飯塚委員、菊地委員から若者の参画についてご意見があったことから、ねらい１を「若者が活躍し、多世代が集う活気あふれるまち」と修正しました。

戦略目標３は「『地域資源』からモノやしごとを創るまち」です。農漁業、中小企業、新港地域の振興、地域特性に応じたまちづくりなどに関する目標です。

一つ目の図表は、農業・漁業従事者数の推移で、平成20年以降、いずれも大きく減少しており、後継者など担い手の確保が喫緊の課題です。

二つ目は石狩湾新港地域の立地企業数と税収の推移で、いずれも増加しています。ねらい１は、洋上風力発電をはじめとする再生可能エネルギー、データセンターなどの次世代産業や商業機能の誘致によるにぎわいの創出、ねらい２は農林水産業・中小企業の支援と就労者の確保、ねらい３は地域ごとの課題や強みを活かした地域づくりと関係人口の創出に関してです。

戦略目標４は「『いろんな顔』があるまち」で、定住、移住、観光に関する目標です。

一つ目の図表は、新築住宅数と転入者数の推移です。新築住宅数は平成28年から増加していましたが、資材価格や地価の上昇などにより減少へ転じました。転入者数も同様に推移しており、本市では新築住宅の購入に伴う転入が多いと考えられます。

二つ目の図表は、石狩市への定住意欲を示し、住み続けたいと考える市民の割合は約８割で推移しています。この意欲を実際の定住につなげ、Uターンを促す施策が必要です。

ねらい１は定住に向けた生活環境、ねらい２は移住に向けたシティプロモーション、ねらい３は自然、歴史、食などを活かした観光振興について記載しています。

戦略目標５は「誇りとなる『人や文化』が育つまち」で、生涯学習、郷土愛、自然保護などに関する目標です。

一つ目の図表は、石狩市民カレッジの講座開催数と受講者数の推移です。コロナ禍の前後を比較すると、講座開催数は以前の水準に戻っていますが、受講者数は低い水準で、受講者

の固定化・高齢化に対応し、裾野を広げる必要があります。

二つ目の図表は「石狩市が好き」と答えた市民の割合で、これは８割を超えて推移しています。

ねらい１は社会教育活動の場の充実や環境整備による生涯学習の推進を、ねらい２はふるさと学習を通じた石狩への愛着と郷土愛の醸成、ねらい３は生物多様性の保全と経済活動・脱炭素社会の両立について記載しています。

戦略目標６は、人口減少・少子高齢化が深刻化する中で行政サービスを維持するため、広域連携やデジタル技術の導入など時代の変化に対応しつつ、対話と協働によるまちづくりを大切にする目標です。前回は「『伝統と時の流れ』が織りなすまち」でしたが、伝わりにくいとの意見を踏まえ、「『変わらぬ魅力と新たな価値』が調和するまち」と修正しました。

一つ目の図表は、公共施設の延床面積の推移です。人口減少に伴い利用者も減ることから、施設の統廃合、廃止、複合化などが必要です。公共施設の総延床面積は減少傾向ですが、さらに適正化を進める必要があります。二つ目は住民票などの各種証明書のコンビニ交付件数で、８年間で 10 倍以上に増えています。生活様式の変化に対応した行政サービスの効率化への期待が高まっています。

ねらい１は公共施設・インフラの最適化、広域連携、公共交通の確保、ねらい２は激甚化する災害への対策強化、ねらい３は先端技術を取り入れながら、これまで大切にしてきた市民参加と協働のまちづくりを守ることです。

30 ページから 13 分野の基本施策です。素案から、文章の統合などを中心に表現を修正していますので、ご確認ください。また、本日の資料にはありませんが、この後に資料編として、市民意見聴取の取組や計画の検討経緯、用語解説などを掲載する予定です。

第４章の説明は以上です。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

目標ごとに背景とデータが示され、非常に分かりやすい構成です。後半の基本施策もご覧いただき、気付いた点があれば会議後でも事務局へお知らせください。それでは、第４章についてご意見をお願いします。

【菊地委員（石狩市連合町内会連絡協議会）】

町内会の立場から申し上げます。３日ほど前、江別市の連合町内会との交流会を行いました。ごみ収集や除雪など、石狩市が進んでいると評価された点もありました。一方、町内会加入率は、江別市、石狩市とも６割程度です。加入しやすい仕組みを考えること、とりわけ若い人の力を地域へつなぐことが大切です。全般的には、江別市は地域を三つ程度に分けて把握しやすい一方、石狩市は浜益まで含めると南北に長く難しい点もあるという話も出ました。今回のエリア別の表現は分かりやすく良いと思います。若者が参加しやすくなるよう、もう少し踏み込んだ表現を検討いただきたいと思います。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

20、21 ページに関わるご意見です。若者の活躍と地域とのつながりが結び付くような文

章になると、ご意見が反映され、町内会加入率のデータとの関連も明確になると思います。ご検討をお願いします。

【早川委員（石狩市校長会）】

石狩市校長会の早川です。現在、紅南小学校の校長をしています。本校では地域との連携を進めています。地域との連携により、こどもたちを見守っていただくなど、こどもたちがより守られますので、地域と学校の連携をもう少し前面に出した方が良いと感じます。地域とPTAが一緒に催しを行い、地域の中でこどもたちが学ぶことで地域も元気になります。また、PTA役員を経験した方が、その後、地域の役員になるという相互作用もあります。戦略目標１のねらい２「地域が一体となり、子育てを支えるまち」に、地域と学校の連携という視点を盛り込んでいただければと思います。

また、「このまちに住み続けたい」と思えるまちにするには、温かなつながりがあることが一つの要因になります。地域とこどもが一体となることで、保護者も地域に関わり、温かな組織がつくられます。防災にも関わることでもあり、地域のつながりによって防災機能も高まると思います。

【事務局】

早川委員のお話のあった、こども、学校、地域のつながりから新しい連携や価値が生まれるという視点は重要です。戦略目標１や戦略目標２にその観点を盛り込み、後半の基本施策のまちづくりの部分でも意識して文章をブラッシュアップしたいと考えています。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

戦略目標１の「ねらい」に「生活」「地域」といった言葉は既に入っていますので、タイトルや文章へニュアンスを反映できると思います。また、基本施策の記述は、こどもへの支援を家族単位で捉える印象がやや強く、子育て支援イコール家族支援というイメージが先行しています。「地域で育てる」という視点が入ると、戦略目標との関係がより明確になると思います。

【波多野委員（公募委員）】

地域とこどもの話が出ましたので、具体例をお話しします。今週、認定こども園のこどもたちが農業体験に来てくれました。また、昨日と今日の午前中には高校生が農業体験に来て、２時間ほど作業をしてもらいました。こども園とは５、６年にわたって農業体験を続けています。農業体験ができることを園の特色としており、「農業体験ができるから石狩へ引っ越してきた」と話す保護者もいました。年少から年長まで３年間、ジャガイモ掘りやゴボウ掘りなどを体験し、小学生になってからも「以前来たことがある」と話してくれます。石狩とのつながりが残っているのだと感じます。高校生からは、「屯田に住んでいるが、石狩に住めたら働きに来られるのに」という話もありました。高校からはSNSのダイレクトメッセージで「農業体験は可能ですか」と連絡をいただき、フードデザインの授業と関連付けて来てくれました。このような体験について受入れ可能な企業はほかにもあると思います。こども

たちに石狩へ行きたいと思ってもらい、企業や地域と気軽につながれるプラットフォームがあると取り組みやすいと思います。体験後に野菜をお土産として渡すと、今度保護者が直売所や市内店舗へ買い物に来てくれることもあり、地域経済にもつながっていくと思います。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

既に各地域で「地域で育てる」「地域が支える子育て環境」が充実しているようです。それを石狩の特色として、より明確に示すことは重要だと思います。

【飯塚委員（公募委員）】

戦略目標５についてです。ほかの戦略目標では、新築住宅数や転入者数など、増減から課題を理解しやすいデータが示されています。しかし、戦略目標５の二つのデータは、「だから何が課題なのか」が少し分かりにくいと感じます。「石狩市が好き」と答えた割合が８割という結果も、私の実感とはズレを感じ、質問項目として妥当なのか検討が必要ではないでしょうか。例えば、地域のイベント参加率などであれば、データとして納得しやすいと思います。また、石狩市民カレッジの講座内容を見ると、石狩について学ぶ講座は多くなく、協力する企業・団体の知見を学ぶ場という性格もあります。「生涯を通じて学び続けられる」という観点なら適切ですが、「石狩の文化を育てる」という話とは異なります。市民カレッジ自体の裾野を広げるのか、社会教育活動全体の裾野を広げるのかで、行政の取組は大きく変わります。その点が少し曖昧だと感じます。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

データと「ねらい」のつながりを明確にすることは、各戦略目標に共通する課題です。特に戦略目標５は、話のつながりが分かりやすくなる別のデータがあれば、検討いただきたいと思います。

【早川委員（石狩市校長会）】

ふるさと学習について申し上げます。小学校では、石狩の歴史・産業・自然に関わるさまざまな体験学習を行っています。例えば、森林学習で市内の防風林を訪れ、植生を学ぶ取組などがあります。これらを「ふるさと学習」だけでなく、「石狩学」や「石狩プライド学習」など、印象に残る名称で体系化してはどうでしょうか。小学校３、４年生の郷土を学ぶ時間などへ組み込み、石狩のさまざまな体験を通じて、石狩をより好きになってもらう取組です。石狩には優れた資源や交流の歴史がありますので、具体的な学びとして位置付けていただければと思います。

【事務局】

31 ページの基本施策（２）教育の３つ目に、まちの未来や課題を学ぶ旨を記載していますが、ここに書き切れていない内容があるというご意見と受け止めました。頂いた視点を盛り込めないか検討します。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

今回の計画はこどもを最初の戦略目標に置いていますので、丁寧に精査をお願いします。

【徳地委員（市民公募（浜益））】

漁業者として申し上げます。サケがこれほど獲れないとは思っていませんでした。「サケが特色」と言えるのかというほど厳しい状況です。戦略目標３には農業・漁業従事者数の推移が示されていますが、産業として成り立たなくなりつつあります。このままでは、高齢者は年齢を重ねて廃業し、子育て世代は漁業ではこどもを育てられず、漁業を辞める可能性があります。単なる支援ではなく、「構造改革を推進する」といった、より踏み込んだ表現を検討していただきたいと思います。３年後にも漁業者を続けられるか分からないというほどの状況です。戦略目標３と 36 ページの農林水産業に関する箇所には、強い危機感が伝わる表現にしていただきたいです。

【事務局】

サケ漁が非常に厳しい状況であることは承知しています。一方、別の魚種が多く獲れるなど、漁業を取り巻く環境そのものが変化していることも認識しています。戦略目標３の農業・漁業従事者数の推移だけでなく、現状の厳しさを示し、「地域産業を守り育てる」というねらいの中で、支援の在り方や考え方の転換も含めて表現できるよう検討します。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

今回の原案では、市全体を俯瞰するデータをそろえようとしていると思いますが、現在の変化が分かる、より焦点を絞ったデータも必要です。産業分野であれば、従事者数だけではなく、獲れる魚種の変化や漁獲量の減少などを示す方が、状況が伝わる可能性があります。データと「ねらい」の組合せが適切か、全体を通して再検討いただきたいと思います。

【東委員（厚田地域協議会）】

戦略目標６の「新たな仕組み」や「先端技術」は、デジタル化などを指すと思います。高齢化が進み、高齢者の一人暮らしも増える中、防災情報をすぐ受け取れるようにしてほしいのですが、スマートフォンを持っていない方や、持っていても使い方が分からず放置している方も少なくありません。特に高齢者は、自分から情報を取りに行くことが難しい場合があります。熊の出没など、命に関わる情報を受け取れる仕組みとして、「いしポ」を導入するなどもう少し具体的に示してほしいと思います。例えば、高齢者向けにアプリの使い方講座を開く、機器を届けるなど、利用につながる取組が必要です。

【事務局】

情報発信ツールとして市のアプリをリリースし、普及に努めていますが、十分に利用されているとは言えません。重要な情報を誰一人取り残さず届けることは、行政の責任です。デジタル機器を使わない方には、固定電話へ自動で電話する仕組みなども考えられます。「先端技術」という言葉は日常生活から離れた技術のように受け取られる可能性がありますの

で、表現を検討します。AI なども活用しながら、見守りや情報を届ける力を持つ自治体へ成長したいという趣旨が伝わるようにしたいと考えています。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

「先端」という言葉より、「使いやすい、親しみやすい情報サービス」など、意図を直接表す言葉の方が分かりやすいかもしれません。ご検討ください。

【八田委員（公募委員（厚田））】

地域ごとの課題の違いも大きいと思います。花川・樽川周辺では高齢者でもスマートフォンを持っている割合が高いかもしれませんが、厚田・浜益では、スマートフォンがなくても地域のつながりによって情報が伝わることがあります。子育てや生涯学習も、厚田・浜益でできることと中心市街地でできることは異なります。全ての施策を地域ごとに書き分ける必要はありませんが、地域の強みや課題、重点となる施策がどこなのかを、データや「ねらい」の表現にもう少し反映できないでしょうか。

【事務局】

地域ごとに、高齢化、コミュニティなど、それぞれの特色と課題があります。一方、基本構想のミッションは厚田、浜益、旧石狩という別々のものではなく、合併後の石狩市全体としての計画です。個別の課題は、総合計画を柱とする各個別計画や、過疎計画などとの関連の中で対応していくものと考えています。ただし、地域ごとの課題として特に明示すべき事項は、全体の中で工夫して表現します。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

本文を全て地域別に細分化すると、総合計画として複雑になり過ぎます。一方、施策の前提として「地域の文脈を踏まえる」「地域の実情に合わせる」といった一文があると、具体的な行動の際には地域に応じて最適化するという考え方が伝わると思います。

【波多野委員（公募委員）】

原案が市民向けに公開されたとき、読んだ方が「ここから、どこへどのように関わっていけば良いのか」が分かる仕掛けがあると良いと思います。例えば、町内会加入、農業・漁業への就業、地域交通、市のアプリ、学校との連携など、それぞれの情報へつながる QR コードがあれば、この計画が石狩の情報への入口になります。紙を手元に置き、何度も参照してもらえる資料になるのではないでしょうか。

【事務局】

総合計画は長期間使用するため、個別情報を直接掲載すると、情報が古くなる懸念があります。一方、情報の伝え方として興味深いご提案ですので、更新可能な総合案内ページへつなぐなど、工夫できないか検討します。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

行政としては、リンク切れなどの管理も課題になりますが、利便性とのバランスを取ってご検討ください。

私からも、戦略目標６のデータと「ねらい」の関係について申し上げます。「変わらぬ魅力と新たな価値」という目標に対し、公共施設の延床面積が最も適切なデータなのか疑問があります。都市の姿を示すのであれば、人口集中地区の変化なども一案です。人口が減少する一方で低密度な市街地が広がると、除雪距離やインフラ維持費が増えます。災害に関する目標であれば、ハザードマップに関するデータも考えられます。都市機能、災害、デジタル化という「ねらい」と左側のデータがよりつながるよう検討してください。

仮に公共施設の延床面積を用いる場合も、「行政サービスを維持しながら、さらなる減少に向ける」という説明は、行政側が施設を減らしたいという印象が強く、市民からはサービス低下と受け取られかねません。「適正な施設規模を目指す」などの表現が良いと思います。

【佐藤委員（NPO 法人石狩国際交流協会）】

私も公共施設延床面積の記述が気になります。例えば、花川北コミュニティセンターは予約が取りにくいほど利用されていますが、他の施設は十分に使われていない場合があります。施設間で機能をどう調整し、活用度の高い施設にしていくかが重要です。人口５万６千人規模の市として、体育館などの施設が十分とは言えない面もあります。単に縮小していくような後ろ向きの表現ではなく、既存施設をより効率的に活用し、必要な機能を確保するという方向が伝わる表現にしていただきたいと思います。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

第１章から第３章を含め、後から気付いた点があれば、なるべく早く事務局へお知らせください。パブリックコメントの段階では原案はほぼ完成した状態になりますので、それまでにご意見をお寄せいただき、可能な範囲で反映できるようにご検討ください。

その他として、事務局または委員の皆さまから何かありますか。それでは進行を事務局へお返しします。皆さま、御協力ありがとうございました。

【事務局】

事務局から連絡事項があります。本日、委員の皆さまからいただいた意見を基に原案を固め、11 月から１か月間、パブリックコメント及びこども版パブリックコメントを実施します。その結果を踏まえ、12 月 21 日に予定している第５回審議会で答申をいただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。また、次回は集合写真を撮影する予定です。改めてご連絡しますので、可能な限りご参加をお願いします。

以上をもちまして、第４回石狩市総合計画策定審議会を終了します。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

令和　8 年　10 月　20 日　議事録確定

石狩市総合計画策定審議会　　会長　　森　　傑